

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

分担研究報告書

仙尾部奇形腫

田尻 達郎 九州大学大学院医学研究院発達医学講座小児外科学分野 教授

臼井 規朗 大阪母子医療センター小児外科 部長

文野 誠久 京都府立医科大学大学院医学研究科小児外科学 学内講師

【研究要旨】

本研究は、乳児仙尾部奇形腫の長期予後に関する全国アンケート調査を実施するものである。本研究の先行研究で仙尾部奇形腫に対する診療ガイドラインの確立と情報公開が行われ、長期合併症（後遺症）として、再発、悪性転化や排便障害、排尿障害、下肢の運動障害などが欧米からの報告で決して少なくないことが判明した。しかし、本邦での明確な長期予後については本疾患の希少性から各施設での経験症例はそれほど多くはないため、これまでまとまった報告はほとんどない。そのため、本調査においては全国の本症の長期的な予後の現状を把握する事を目的とし、今後の治療成績の向上およびフォローアップのあり方を検討し、ひいては政策医療に反映できるかを模索する。

A. 研究目的

仙尾部奇形腫は、仙骨の先端より発生する奇形腫で、臀部より外方へ突出または骨盤腔内・腹腔内へ進展し、充実性から嚢胞性のものまで様々な形態をとりうる。尾骨の先端に位置する多分化能を有する細胞（Hensen's node）を起源としており、内胚葉、中胚葉、外胚葉すべての胚葉由来の成分を含む腫瘍と定義されている。3胚葉由来の成分を含むため、骨・歯牙・毛髪・脂肪・神経組織・気道組織・消化管上皮・皮膚などあらゆる組織を含むことがある。本来は良性腫瘍であり予後良好ととらえられがちだが、ときに巨大腫瘍となり胎児心不全やDICなどの重篤な症状を呈する症例もあり、周産期治療の成績向上により患児の長期生存が得られるようになった現在になって、遠隔期合併症が臨床上クローズアップされるようになって来ている（Masahata K, et al: Pediatr Surg Int, 2020）。

本研究は、令和4年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究」（代表 福岡短期大学 田口智章）のなかの、仙尾部奇形腫グ

ループ（研究代表者 田尻達郎）としての学術活動であり、乳児仙尾部奇形腫の長期予後に関する全国アンケート調査を実施するものである。本研究の先行研究である「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」（H26-難治等（難）-一般-045）のなかで、全国で初めての仙尾部奇形腫に対する診療ガイドラインの確立と情報公開が行われた（Fumino S, et al: Pediatr Int, 2019）。そのなかで、クリニカルクエスションとして、長期合併症（後遺症）が挙げられ、再発、悪性転化や排便障害、排尿障害、下肢の運動障害などが欧米からの報告で決して少なくないことが判明した。しかし、本邦での明確な長期予後については本疾患の希少性から各施設での経験症例はそれほど多くはないため、これまでまとまった報告はほとんどない。そのため、本調査においては全国の本症の長期的な予後の現状を把握する事を目的とし、今後の治療成績の向上およびフォローアップのあり方を検討し、ひいては政策医療に反映できるかを模索する。

さらに、ヨーロッパ小児外科学会（EUPSA）による仙尾部奇形腫再発の国際調査（EUPSA

retrospective sacrococcygeal teratoma study) が2020年より進行中であり、調査協力の依頼があったため、本試験ではEUPSA studyの調査項目も織り込み、アンケート回収後に匿名化されたデータをEDC (Castor) を通して提供する。

B. 研究方法

本研究では、国内日本小児外科学会認定施設・教育関連施設(A・B)の本症症例に対するアンケート調査(後向き研究)を行う。2000年1月1日～2019年12月31日の期間に治療を受け、生後180日以上生存を確認できた乳児仙尾部奇形腫症例で、国内日本小児外科学会認定施設・教育関連施設にて外来フォロー中の患者を対象とし、各施設における診療録などの既存資料から、下記の調査項目を含む質問用紙に、個人情報を含む匿名化したうえで記入していただき、データを収集する。

依頼状および一次調査票(ハガキ)を日本小児外科学会認定施設・教育関連施設に郵送し、かつ京都府立医科大学小児外科ホームページ上で公開する。データ管理・集計は京都府立医科大学小児外科にて行う。

一次調査票を通じて具体的な症例数を把握し、二次調査の参加意思を確認する。

参加可能施設に、二次調査用紙を郵送し回答していただく。

調査項目:

- ・症例の概要(出生日、性別、在胎週数、出生体重、出生前診断、腫瘍最大径、診断日or日齢、病型(Altman分類)、合併奇形、クラリーノ症候群の有無、特記事項)
- ・手術項目(手術日or日齢、術前画像検査、手術施行施設、治療種類、手術アプローチ、手術の種類、病理診断、仙尾部奇形腫に対する再手術の有無、特記事項)
- ・予後(最終転帰確認日(死亡日)、転機/退院状況、就労・就学状況、最終転機確認時後遺症(排便障害、排尿障害、下肢運動障害、中枢神経障害、創醜形、性機能障害、再発、再発診断日or日齢、再発診断方法、再発時病理診断、再発時治療種類、特記事項)

(倫理面への配慮)

本研究は既存の診療情報からの情報を匿名化したうえで収集する後方視的研究であり、介入や侵襲も伴わない。そのため、研究代表者施設で医学研究倫理審査を受け、オプトアウトを掲示・掲載することで各施設の倫理審査は不要と

する。

C. 研究結果

- (ア) アンケート調査用紙の作成: 対象症例数を調査する一次調査票、および上記評価項目およびEUPSA調査項目を盛り込んだ二次調査票の作成を行った。二次調査の内容は、32項目の調査でチェックボックスを多用しており、なるべく入力負担を軽減できるよう配慮した。
- (イ) EUPSAへの調査協力は、Castor ECDシステムを使用するため、EUPSAとData transfer agreementを取り交わした。
- (ウ) 2020年10月に日本小児外科学会に全国規模の学術アンケート調査申請を行い、承認を得た。
- (エ) 2020年11月に研究代表者施設である京都府立医科大学の医学研究倫理審査委員会に倫理審査を申請し、承認を得た。
- (オ) 2021年1月に一次調査票を国内日本小児外科学会認定施設・教育関連施設(A・B)計192施設に送付した。
- (カ) 2021年2月～9月に二次調査票を回収し、最終的に73施設より381例の登録をいただいた。EUPSAへのECD入力を完了した。
- (キ) 2022年度は、データクリーニングおよび解析を施行した。結果として、二次調査回答施設73施設、回答症例数388例であり、重複・不適格例を除外した355症例を解析対象とした。355例中の内訳については、資料1に示す。直腸障害は、62例(17.5%)、排尿障害は46例(13.0%)、下肢運動障害は15例(4.2%)、再発は42例(11.8%)であった。現在、リスク因子を明らかにするため多変量解析を行っている。
- 2023年6月の第60回日本小児外科学会学術集会、9月の第56回太平洋小児外科学会(PAPS)での発表と、英文論文発表を予定している。
- (ク) EUPSA studyについては、65ヶ国150施設から3593例が登録され、2022年6月にテルアビブで開催されたEUPSAにて、概要が発表された(資料2)。現在論文作成が進行中である。
- (ケ) 仙尾部奇形腫のガイドラインや予後の広報のため、口演や総説の執筆を行った。
1. 田尻達郎: 仙尾部奇形腫の治療戦略。日本周産期・新生児医学会雑誌,

D . 考察

仙尾部奇形腫は、周産期治療の成績向上により患児の長期生存が得られるようになった現在になって、遠隔期合併症の存在などが臨床上クローズアップされるようになってきた。仙尾部奇形腫に関する診断治療ガイドラインは公開されたものの、我が国における本症の長期予後の実態はこれまで調査されておらず詳細は不明である。本研究により国内での長期予後を明らかにすることで、ガイドラインの次期改訂に寄与し、仙尾部奇形腫の診療において小児期・移行期・成人期にわたる診療提供体制を構築することを最終目標としている。

E . 結論

乳児仙尾部奇形腫の長期予後に関する全国アンケート調査を完了し、公表に向けての準備中である。

F . 研究発表

1. 論文発表
- 1) Takimoto A, Fumino S, Takayama A, Kim K, Aoi S, Furukawa T, Hongo F, Yano M, Ishida H, Iehara T, Tajiri T: Laparoscopic resection of pediatric interaortocaval large paraganglioma. *J Pediatr Surg Case Rep*, 78: 102195, 2022. doi: org/10.1016/j.epsc.2022.102195.
- 2) Hara J, Nitani C, Shichino H, Kuroda T, Hishiki T, Soejima T, Mori T, Matsumoto K, Sasahara Y, Iehara T, Miyamura T, Kosaka Y, Takimoto T, Nakagawara A, Tajiri T, JNBSG: Outcome of children with relapsed high-risk neuroblastoma in Japan and analysis of the role of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Jpn J Clin Oncol*, 52: 486-492, 2022. doi: 10.1093/jjco/hyac007.
- 3) Kambe K, Fumino S, Sakai K, Higashi M, Aoi S, Furukawa T, Tajiri T: Predictive factors for fundoplication following esophageal atresia repair. *Pediatr Int*, 64: e15026, 2022. doi: 10.1111/ped.15026.
- 4) Kawano T, Souzaki R, Sumida W, Ishimaru T, Fujishiro J, Hishiki T, Kinoshita Y, Kawashima H, Uchida H, Tajiri T, Yoneda A, Oue T, Kuroda T, Koshinaga T, Hiyama E, Nio M, Inomata y, Taguchi T, Ieiri S: Laparoscopic approach for abdominal neuroblastoma in Japan: results from nationwide multicenter survey. *Surg Endosc*, 36: 3028-3038, 2022. doi: 10.1007/s00464-021-08599-4.
- 5) Yamoto M, Nagata K, Terui K, Hayakawa M, Okuyama H, Amari S, Yokoi A, Masumoto K, Okazaki T, Inamura N, Toyoshima K, Koike Y, Yazaki Y, Furukawa T, Usui N: Long-Term Outcomes of Congenital Diaphragmatic Hernia: Report of a Multicenter Study in Japan. *Children (Basel)*, 9: 856, 2022. doi: 10.3390/children9060856.
- 6) Sengoku Y, Higashi M, Nagayabu K, Takayama S, Fumino S, Aoi S, Furukawa T, Tajiri T: IL13 and periostin in active fbrogenic areas of the extrahepatic bile ducts in biliary atresia patients. *Pediatr Surg Int*, 38: 1847-1853, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05238-4.
- 7) Kambe K, Iguchi M, Higashi M, Yagyu, S, Fumino S, Kishida T, Mazda O, Tajiri T: Development of minimally invasive cancer immunotherapy using anti-disialoganglioside GD2 antibody-producing mesenchymal stem cells for neuroblastoma mouse model. *Pediatr Surg Int*, 39: 43, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05310-z.
- 8) Takimoto A, Fumino S, Iguchi M, Takemoto M, Takayama S, Kim K, Higashi M, Aoi S: Current treatment strategies for postoperative intrahepatic bile duct stones in congenital biliary dilatation: a single center retrospective study *BMC Pediatrics*, 22: 695, 2022. Doi: 10.1186/s12887-022-03759-4.
- 9) Masahata K, Yamoto M, Umeda S, Nagata K, Terui K, Fujii M, Shiraishi M, Hayakawa M, Amari S, Masumoto K, Okazaki T, Inamura N, Toyoshima K, Koike Y, Furukawa T, Yazaki Y, Yokoi A, Endo M, Tazuke Y, Okuyama H, Usui N: Prenatal predictors of mortality in fetuses with congenital diaphragmatic hernia: a systematic review and meta-

- analysis. *Pediatr Surg Int*, 38: 1745-1757, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05232-w.
- 10) Terui K, Nagata K, Yamoto M, Hayakawa M, Okuyama H, Amari S, Yokoi A, Furukawa T, Masumoto K, Okazaki T, Inamura N, Toyoshima K, Koike Y, Okawada M, Sato Y, Usui N: A predictive scoring system for small diaphragmatic defects in infants with congenital diaphragmatic hernia. *Pediatr Surg Int*, 39: 4, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05287-9.
 - 11) Kono J, Nagata K, Terui K, Amari S, Toyoshima K, Inamura N, Koike Y, Yamoto M, Okazaki T, Yazaki Y, Okuyama H, Hayakawa M, Furukawa T, Masumoto K, Yokoi A, Usui N, Tajiri T: The efficacy of the postnatal nasogastric tube position as a prognostic marker of left-sided isolated congenital diaphragmatic hernia. *Pediatr Surg Int*, 38: 1873-1880, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05226-8.
 - 12) Kawakubo N, Takemoto J, Koga Y, Hino Y, Tamaki A, Kohashi K, Ono H, Oda Y, Ohga S, Tajiri T: The utility of core-needle tumor biopsy for pediatric patients. *Pediatr Int*. 64: e15228, 2022. doi: 10.1111/ped.15228.
 - 13) Omori A, Kawakubo N, Takemoto J, Souzaki R, Obata S, Nagata K, Matsuura T, Tajiri T, Taguchi T: Effects of changes in skeletal muscle mass on the prognosis of pediatric malignant solid tumors. *Pediatr Surg Int*, 38: 1829-1838, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05225-9.
 - 14) Nakamura M, Yoshimaru K, Matsuura T, Hamada H, Motomura Y, Hayashida M, Ohga S, Tajiri T, Hara T, Taguchi T: Characteristics of intussusception in the period of arbitrary Rotavirus vaccination. *Pediatr In*, 64: e15332, 2022. doi: 10.1111/ped.15332.
 - 15) Sawano T, Kondo T, Ebihara G, Nagata K, Inoue H, Fujiyoshi J, Ochiai M, Kido S, Fujita Y, Sakai Y, Kato K, Tajiri T, Ohga S: Lung to thorax transverse area ratio as a predictor of neurodevelopmental outcomes in fetuses with congenital diaphragmatic hernia. *Early Hum Dev*, 170: 105598, 2022. doi: 10.1016/j.earlhumdev.2022.105598.
 - 16) Kondo T, Nagata K, Jimbo T, Kono J, Kawakubo N, Obata S, Yoshimaru K, Miyoshi K, Esumi G, Matsuura T, Masumoto K, Tajiri T, Taguchi T: A salvage technique using a fibrous sheath to avoid the loss of the central veins in cases of pediatric intestinal failure. *Pediatr Surg Int*, 38: 1855-1860, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05233-9.
 - 17) Kawakubo N, Obata S, Yoshimaru K, Miyoshi K, Izaki T, Tajiri T: Successful management of pyriform sinus cyst and fistula using endoscopic electrocauterization. *DEN Open*, 3: e128, 2022. doi: 10.1002/deo2.128.
 - 18) Yoshimaru K, Tamaki A, Matsuura T, Kohashi K, Kajihara K, Irie K, Hino Y, Uchida Y, Toriigahara Y, Kawano Y, Shirai T, Oda Y, Tajiri T, Taguchi T: Palisading-like arrangement of immature ganglion cell in myenteric ganglia is a unique pathological feature of immaturity of ganglia. *J Pediatr Surg*, 57: 1269-1273, 2022. doi: 10.1016/j.jpedsurg.2022.02.035.
 - 19) Kono J, Nagata K, Terui K, Amari S, Toyoshima K, Inamura N, Koike Y, Yamoto M, Okazaki T, Yazaki Y, Okuyama H, Hayakawa M, Furukawa T, Masumoto K, Yokoi A, Usui N, Tajiri T: The efficacy of the postnatal nasogastric tube position as a prognostic marker of left-sided isolated congenital diaphragmatic hernia. *Pediatr Surg Int*, 38: 1873-1880, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05226-8.
 - 20) Yamamichi T, Sakai T, Yoshida M, Takayama K, Uga N, Umeda S, Maekawa S, Usui N: Persistent cloaca with fetal ascites: clinical features and perinatal management. *Pediatr Surg Int*, 38: 1577-1583, 2022. doi: 10.1007/s00383-022-05204-0.
 - 21) Umeda S, Takayama K, Takase K, Kim K, Yamamichi T, Tayama A, Usui N: Clinical factors related to undescended testis in infants with gastroschisis. *Pediatr*

- Int, 64: e15054, 2022. doi: 10.1111/ped.15054.
- 22) Yamamichi T, Yoshida M, Sakai T, Takayama K, Uga N, Umeda S, Maekawa S, Usui N: Factors associated with neonatal surgical site infection after abdominal surgery. *Pediatr Surg Int*, 38: 317-323, 2022. doi: 10.1007/s00383-021-05051-5.
- 23) Mori H, Masahata K, Umeda S, Morine Y, Ishibashi H, Usui N, Shimada M: Risk of carcinogenesis in the biliary epithelium of children with congenital biliary dilatation through epigenetic and genetic regulation. *Surg Today*, 52: 215-223, 2022. doi: 10.1007/s00595-021-02325-2.
- 24) Maeyama T, Ichikawa C, Okada Y, Sawada A, Inoue M, Takeuchi M, Soh H, Usui N, Etani Y, Kawai M: Beta-human chorionic gonadotropin-producing neuroblastoma: an unrecognized cause of gonadotropin-independent precocious puberty. *Endocr J*, 69: 313-318, 2022. doi: 10.1507/endocrj.EJ21-0366.
- 25) Nara K, Hiwatashi S, Yamamichi T, Soh H, Usui N: A case of eighteen intestinal and colonic atresias in a patient treated with staged surgery. *Pediatr Int*, 64: e14900, 2022. doi: 10.1111/ped.14900.
- 26) Kimoto Y, Takahashi K, Usui N, Takeuchi M, Wada K. Laryngeal atresia, esophageal atresia, and total anomalous pulmonary venous return in a monozygotic twin. *Pediatr Int*, 64: e14986, 2022. doi: 10.1111/ped.14986.
- 27) Takase K, Ueno T, Yamamichi T, Iwasaki S, Toyama C, Okada Y, Nomura M, Watanabe M, Sawada A, Miyamura T, Bessho K, Inoue M, Usui N, Okuyama H: Successful surgical resection and chemotherapy for unresectable hepatoblastoma with pulmonary metastases and for lung recurrence after liver transplantation: A case report. *Transplant Proc*, 54: 556-559, 2022. doi: 10.1016/j.transproceed.2021.12.037.
- 28) 文野誠久, 他: 日本小児外科学会編 腸回転異常症診療ガイドライン. 東京: 東京医学社, 2022.
- 29) 文野誠久, 青井重善, 古川泰三, 打谷円香, 田尻達郎: 頸部リンパ管腫に対する最新の集学的治療. *小児科*, 63: 415-420, 2022.
- 30) 坂井宏平, 金 聖和, 東 真弓, 文野誠久, 青井重善, 古川泰三, 田尻達郎: 【医療的ケア児支援と在宅医療】大学病院小児外科における医療的ケア児に対する取り組み. *小児外科*, 54: 485-488, 2022.
- 31) 青井重善, 文野誠久, 金 聖和, 高山勝平, 東 真弓: 【高位・中間位鎖肛手術術式の成績と問題点アップデート】根治術における筋群切開の検討. *小児外科*, 54: 687-690, 2022.
- 32) 田尻達郎: 仙尾部奇形腫の治療戦略. *日本周産期・新生児医学会雑誌*, 57: 590-592, 2022.
- 33) 松浦俊治, 田尻達郎: 【見て, 聞いて, 触って, 五感で診る新生児の異常とその対応】腹部の異常. *周産期医学*, 52: 1389-1393, 2002.
- 34) 福田篤久, 小幡 聡, 永田公二, 田尻達郎: 【高位・中間位鎖肛手術術式の成績と問題点アップデート】中間位鎖肛に対するPSARPの術後排便機能に基づいた外肛門括約筋切開の是非. *小児外科*, 54: 674-678, 2022.
- 35) 川久保尚徳, 田尻達郎: 難治性固形腫瘍の新規治療法開発 神経芽腫に対する全く新しいINK細胞養子免疫治療の開発. *日小血液がん学会誌*, 58: 374-377, 2022. doi: 10.11412/jspho.58.374.
- 36) 松井 太, 松尾規佐, 樋口伊佐子, 矢下博輝, 大嶋浩一, 矢澤浩治, 松本富美, 臼井規朗, 位田 忍: 【高位・中間位鎖肛手術術式の成績と問題点アップデート】思春期を迎えた患者の性機能とその支援. *小児外科*, 54: 735-739, 2022.
- 37) 臼井規朗: 新生児消化管穿孔の諸問題 低出生体重児における消化管穿孔の現状. *日周産期新生児医学会誌*, 57: 723-725, 2022.
- ## 2. 学会発表
- 1) Takimoto A, Fumino S, Takemoto M, Takayama S, Kim K, Higashi M, Aoi S: Treatment strategies for postoperative intrahepatic bile duct stones in congenital biliary dilatation. 55th Pacific Association of Pediatric

Surgeons (PAPS), 2022 Sep 18-22; Quito (hybrid).

- 2) Fumino S, Takemoto M, Takayama S, Kim K, Higashi M, Furukawa T, Aoi S: Multidisciplinary approach for infantile cervical lymphatic malformations: A 20-year single-institution experience. 55th Pacific Association of Pediatric Surgeons (PAPS), 2022 Sep 18-22; Quito (hybrid).
- 3) Kambe K, Iguchi M, Higashi M, Yagyu S, Fumino S, Kishida T, Mazda O, Tajiri T: Development of minimally invasive cancer immunotherapy using anti-disialoganglioside GD2 antibody-producing mesenchymal stem cells for neuroblastoma mouse model. 35th International Symposium on Paediatric Surgical Research (ISPSR), 2022 Oct 21-23; Osaka.
- 4) Fumino S, Yamashi K, Inoue M, Higashi M, Tajiri T: Systemic inflammation on a local tumor-bearing host enhances metastatic growth in a mouse syngenic metastatic neuroblastoma model. 35th International Symposium on Paediatric Surgical Research (ISPSR), 2022 Oct 21-23; Osaka.
- 5) 文野誠久: ラパリムス時代における難治性リンパ管奇形に対する集学的治療戦略【ランチョンセミナー】. 第38回日本小児外科学会秋季シンポジウム/PSJM2022, 2022年10月27日; 岡山.
- 6) 文野誠久, 金 聖和, 青井重善, 古川泰三, 鴻村 寿, 水津 博, 加藤充純, 松橋延壽, 吉田和弘, 田尻達郎: 京都岐阜小児外科カンファレンス (KGPS) を通じた地方間小児外科医療・教育・研究パートナーシップ【パネルディスカッション; 少子化社会と小児外科育成】. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022年4月16日; 熊本.
- 7) 文野誠久, 高山勝平, 金 聖和, 東 真弓, 青井重善, 古川泰三, 田尻達郎: 大学医局における小児外科医育成の取り組み～医師密集地域と過疎地域の両立を目指して【ワークショップ; 小児外科教育: 優秀な小児外科医を効率的に育成するには】. 第59回日本小児外科学会学術集会, 2022年5月20日; 東京.
- 8) 文野誠久, 高山勝平, 金 聖和, 青井重善, 古川泰三, 家原知子, 内藤泰行, 山岸

正明, 井上匡美, 相部則博, 田尻達郎: 小児固形悪性腫瘍に対する集学的治療における小児外科医の役割【シンポジウム; 小児がん集学的治療における外科系診療科の果たす役割】. 第47回日本外科系連合学会学術集会, 2022年6月16日; 盛岡.

- 9) 文野誠久, 竹本正和, 高山勝平, 金 聖和, 東 真弓, 古川泰三, 青井重善: リンパ管奇形に対するシロリムス内服療法と外科治療の併用について-自験例を中心に-【シンポジウム; 難治性リンパ管疾患への薬物療法】. 第18回日本血管腫血管奇形学会学術集会, 2022年9月16日; 浦安.
- 10) 文野誠久, 竹本正和, 高山勝平, 金 聖和, 青井重善, 宮地 充, 土屋邦彦, 家原知子: 小児における被ばく低減手術としての性腺移動・温存手術. 第64回日本小児血液・がん学会学術集会, 2022年11月25日; 東京.
- 11) 文野誠久, 瀧本篤朗, 三村和哉, 高山勝平: 神経芽腫群腫瘍における原発巣切除に対する至適アプローチ: Open? 鏡視下手術?【パネルディスカッション; 小児腫瘍に対する至適アプローチ: Open vs 内視鏡外科手術】. 第35回日本内視鏡外科学会総会, 2022年12月10日; 愛知.
- 12) 文野誠久, 古川泰三, 青井重善, 金 聖和, 高山勝平, 東 真弓, 田尻達郎: 新生児期発症頸縦隔リンパ管奇形に対する気道管理と集学的治療による治療戦略. 第58回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2022年7月12日; 横浜.
- 13) 文野誠久, 高山勝平, 金 聖和, 宮地充, 家原知子, 井上匡美, 青井重善: 小児骨肉腫肺転移に対する外科治療の検討. 第64回日本小児血液・がん学会学術集会, 2022年11月25日; 東京.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし